

## 春合宿記録（赤岳～阿弥陀岳周遊）

期間：3月16日～21日

参加者：3年 青木陸太（CL）、中山湧貴（SL）

2年 富家政大

1年 松村大輔

3/17(名古屋～八ヶ岳山荘～行者小屋)

13:30 八ヶ岳山荘

14:30 赤岳山荘

17:30 行者小屋

3月16日の夜の福岡を発ち、夜行バスで名古屋へ。

名古屋に到着後、2年の富家と中本と合流。しかし、中本は腸炎を患い、合宿に参加できないと言ってきた。しょうがないので、中本の共同装備を歩荷分け。最初は6人だったメンバーも怪我と病気で4人になった。テントは広がるが、歩荷量が増えてしまう。

また、富家が食料の買い出しを間違え、米が足りないことが判明。おにぎりを買って足しなんとかした。トラブル多発だ。

名古屋からは鈍行で長野県茅野駅に向かう。途中、中津川に止まった。今まで、合宿の移動中に何回も通ったこの駅。思い出深い。もう、この駅に来るのは最後になるかもしれない。

茅野駅に着くと、既に予約していたジャンボタクシーが来ていた。茅野は天気が良く、絶好の登山日和だ。気温も高く、車内はかなり暑かった。

福岡は最近PM2.5の影響で空がかすんでいるが、ここの空は澄んでいる。

八ヶ岳山荘に到着。タクシー代金は8000円。一人頭2000円だった。高いわ～。

八ヶ岳山荘からは林道を黙々と歩く。自家用車は何台か林道に入り、車で赤岳山荘まで向かっていた。しかし、タクシーは入ってはいけならしい。残念。

タイヤが通った痕の溝に雪解け水がジャージャー流れていた。泥と混じってカフェオレみたい。天気も良く、凍ってなかったので、アイゼン無しで歩ける。

下山者何人かとすれ違ったが、外人が多い。日本人よりも外人のほうが多かった。ツアーで一緒なのかな？次々と外人が下山してくる。

赤岳山荘で天気予報を聞くと、明日のアタック予定日は天気が悪いようだった。う～ん、沈殿になるのかなあ。

赤岳山荘からも黙々と歩く、途中、傾斜がきつくなかったので、アイゼンを装着。登りになると富家のペースが急に落ちる。まあ、予想通り（呆）

登山道は下山者が適当に下山してくるせいなのか、いくつも分岐がある。結局、合流するとは思うのだが、やはり道がわかれていると不安になる。ずっと谷沿いを行けばよいので、間違えることはないと思うが。途中、緑ロープが張ってあたり、黄色テープが張ってあるから、それに導かれるように進む。

登りが緩くなってくると、景色が開けてきて、阿弥陀岳や中岳が見えてくる。天気もいいし、景色もいい。最高だ。

行者小屋に着くと、平日にも関わらず、テント4張ほど張ってあった。流石八ヶ岳。人気な山だ。

行者小屋から文三郎道の方へ行くと、水場があり、小屋にはトイレもある。快適だ。

今日の晩飯は、鍋物。富家母特製の煮豚も加わり、豪華な夕食だった。

3/18( 行者小屋～赤岳～阿弥陀岳)

05:45 出発

05:48 地藏尾根とりつき

06:40 地藏の頭

06:50 赤岳展望荘

07:50 赤岳山頂

09:30 文三郎分岐

09:55 中岳

10:05 中岳コル

10:40 阿弥陀岳山頂

11:45 行者小屋

朝食はコーンスープとフランスパンとチーズという、なんとも優雅なもの。一人でフランスパン半分を食べるので、以外にも満腹になった。これはいいものだ。

出発時は、薄明かりの中でも雲がないのがはっきりとわかるほどの晴天だ。しかし、9:00 頃から悪天となる予報だ。

地蔵尾根の急登はかなりしんどい、ゆっくり登る、が、ここから強風が吹いてきて体を持って行かれそう。地蔵の頭の直下は危ないと聞いていたが、雪の量や状態によるのか、全くそうは感じなかった。

地蔵の頭に出ると、朝日を背景にお地蔵様が鎮座、なんと神々しいことか！向こうの方には富士山が！いたれりつくせりである。が、ここにきて、今までにない風！正直に言って、今までに経験したことのない程の強風だ。耐風姿勢でも吹き飛ばされそうになる。赤岳展望荘までの尾根は両サイドに吹き飛ばされないように慎重に、進み、止まり、進み。

赤岳頂上山荘に着くころには風も落ち着き、赤岳山頂では雄大な景色を堪能できた。自分も純粹にそれを楽しめたし、何より、1年生にこの景色を見せることができたのが喜ばしい。

トレースは正規ルートとは違う方向についていた、そこから中岳へ。下級生にはこの斜面の下りは怖かったようだ、もう少し鍛錬を積んでほしい。

文三郎分岐あたりからは天気が悪くなる。ちょうど 9:00 頃！予報通り、ピツタリ！

そこから阿弥陀岳をめざし、到着した頃にはガスで全く見えず。しかも、「阿弥陀岳山頂」という標識も雪で埋没！山頂、ここで...いいよ...ね？という感じ。

ここからは中岳のコルから行者小屋へ下りる。降りてからの暇つぶしもまた過酷....。

3/19( 行者小屋～八ヶ岳山荘)

06:15 行者小屋出発

07:20 北沢・南沢コース分岐

07:25 赤岳山荘

07:35 赤岳山荘出発

08:45 八ヶ岳山荘

18日午後から21時くらいまで雪や霰が降ったこともあり19日の朝には雪の表面などが凍っており、テントを片付けるときは多少苦勞した。行者小屋のテント場を出発する頃には明るくなっていた。4人のうち3人はアイゼンをつけて出発した。テント場の近くのひらけた所は初日に通ったトレースが消えるほどではなかったが雪が積もって少し固まっているようだった。北沢、南沢コースの分岐までは、樹林帯のところはトレースが埋もれているということは全くなかったが、かなり固まっていて少し斜面になるとアイゼン無しでは滑ってしまうようだった。急な坂になるとアイゼン無しでは確実に滑ってしまう。北沢、南沢コースの分岐からは車が通れるような幅の道になっており、そこからは道の表面が凍結しておりアイゼン無しだと歩くのがかなり困難で危険だった。赤岳山荘から八ヶ岳山荘までの道は一部道の表面が出ている所もあるがほとんどが凍結しておりアイゼンは必須だった。初日に通った時とは全く道の様子が変わっていた。八ヶ岳山荘から赤岳山荘までの道は車が通ることができるが、この日はその道の入り口にチェーンをつけるように警告する張り紙がバリケードとともに設置されていた。

係の反省

SL(中山)

今回は、下級生がコースや地形を把握しきれていなかったが、それをカバーすることができたと思う。地形図を見ながら今はこのコースにいる、今からここを下りるなど、様々なことを読み取ることができたのも3年間の成果が出たようで嬉しかった。阿弥陀岳から下りる途中、ガスで先頭のリーダーが見えなくなり、複数のトレースに下級生が惑わされていたときに、こちらだと、道を示すことができた。最後の合宿にふさわしいものとなったと思う。

食糧(富家)

当日の朝に中本に指摘されて気づいたことだが、@米の分量を炊き上がりの量で計算してしまっていたために、5人分で4日分必要だったのだが、1日分足りてないという事態を招いてしまった。結果的に、中本が病気で不参加のため、近くのコンビニのおにぎりで間に合わせることができたのだが、私の確認

不足が引き起こしたミスを忘れないようにしたい。次に下級生に引き継ぐ際には、こうした点を留意して伝えたい。

家からおかずをそこそこ持って行ったこともあり、量に不満があるとかはなかったが、棒ラーメンの賞味期限が切れていたり、細かいところでの粗が目立ってしまった。

#### 装備（青木）

八ヶ岳はとにかく風が強かった。バラクラバは任意にしていたのだが、あったほうが良いと思った。風が強いせいで雪も固くしまっていたので、プラスチック製のシャベルは刺さりにくかった。ブラックダイヤモンドの金属製シャベルを携行していったほうが良いだろう。また、積雪の状態によるとも思うのだが、ザイルやガチャ類は使う場面がなかった。

#### 医療（中山）

使用したのは赤岳山荘から凍結路面を下っているときに松村が滑って手を切ってしまったときのみであった。もちろん、治療する道具もそろっていた。他のものについても準備は十分であったと思う。

#### 記録（松村）

記録係としての今回の反省は少し面倒くさくてその日の記録をその日の内にメモしてなかったことだ。今回は忘れてしまうということは無かったので問題はなかったが、今度からはきちんとこまめに記録しておく。

#### 反省 感想

##### 青木

最後の現役での山。今年は失敗続きだったので、最後に有終の美を飾れてよかったと思う。

しかし、今回は怪我と病気で欠席者が2名も出てしまったことが残念でならない。山頂を拝ませてあげたかった。来年度は夏合宿と冬合宿で登頂成功し、部員全員で山頂を拜んでほしい。

一方で、天候が悪くなると知っているにも関わらず、ちんたら歩いてくる1、2年生が気にかかった。来年度からは上級生になるので、1年生を引っ張ってい

かなければならない立場になる。きちんと自覚を持って、手本となるような先輩になってほしい。力を付け、みんなで協力して、部活を盛り上げていってください。

#### 中山

夏合宿では縦走には行けず、冬合宿も失敗。この状況の中での今回の春合宿であった。去年の春合宿の大山がとても楽しかったのもあってか、今回の赤岳・阿弥陀岳もいけるんじゃないか、という空気が漂っていたので、危機感を感じていた。だから、歩荷トレーニングを導入することを提案するなどして、絶対に成功させようという意気込みで臨んだ。今度こそは、一年生をアルプスの山頂に立たせてやりたい、あの景色や気温や風をその身に体験させてあげたい、という気持ちが強かった。そして、ついに成功した！二つのピークを踏み、無事帰ってくる事ができた。やはり、山はいい。

今年の夏に行こうと思っている、富士山も赤岳展望荘から見え、なんとも言われぬ気持ちになった。これで、合宿は最後となるが、これからも続いていく山行のモチベーションとなった。

#### 松村

春合宿の予定を知った時に、今回の合宿は余裕かなと思いトレーニングを怠ったことが今は反省している。トレーニング不足で2日目に赤岳、阿弥陀岳に登った時、予想を上回るほどきつく、ペースが遅くなって足を引っ張ったと思う。地蔵の頭に着いたとき、風の強さに驚愕したし怖かった。初めて身体を持っていかれそうなくらいの強風で、しかも風と共に巻き上げられた雪が顔面にたたきつけられて痛かった。冬合宿の時も風が強かった記憶があるが、今回は冬合宿の時とは比較にならないくらい強かったと思う。赤岳山頂に着いた時は天気がよくて、景色が良かったが阿弥陀岳の山頂に着いた時はガスで見通しが悪かったのは残念だった。

#### 富家

去年の大山に引き続いて、2回目の春合宿。前回に比べると、かなりレベルが上がったので、今回は前よりも気を引き締めて準備をしたつもりだった。しかし、中山、青木両先輩に指摘されたように体力不足の感は否めなかった。や

はり、普段からもうすこしトレーニングを積むべきだったのだろう。

夏合宿では山頂に立てなかったこともあり、赤岳の山頂が私の人生における最も高い地面になった。風が強くてびびりながらも、アルプスの山頂は格別のもので、貴重な瞬間を体験することが出来た。